

# 公立大学法人金沢美術工芸大学 令和3年度業務実績報告書 論点整理表

金沢市公立大学法人評価委員会

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）  
 (1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

中期目標 ア 学士課程教育にあつては、学部の教育目標及び各科・専攻の教育方針に基づき、教養教育と専門教育を行い、学位授与方針に定める汎用的な教養と専門的な造形力を修めた職業人を育成するとともに、学部を本学の教育拠点と位置づける。

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由	添付資料番号
(ア) 学士課程教育を、本学の教育拠点として位置づけ、学部の教育目標及び各科・専攻の教育方針に基づき、これに相応しい教育を実践する。	(ア) 学部の教育目標、3つのポリシー等の連関性について不断に検証する。	<p>○本学の教育目標とする「芸術が社会に果たす役割を自ら探し行動する人材」育成に対して「学位授与方針（DP）」、「教育課程編成方針（CP）」、「学生の受入方針（AP）」の3つのポリシーを定め、DPの達成のために、教務委員会ではCP、入試委員会ではAPについて協議する体制を構築している。3年度も、学部の教育目標及び各科・専攻の教育方針と3つのポリシーの連関性について、各委員会等での検証を踏まえ、学長のガバナンスの下で教育研究審議会を中心とする全学的な検証を行った。</p> <p>特に入試委員会では、大学入試共通テストに対応した一般選抜を行うなかでAPを検証するとともに、新型コロナウイルス感染症の拡大で全国的な移動が制限された場合でも、APに基づく入学試験をどのように実現するかを検討し、感染防止対策を徹底して慎重に実施した。</p> <p>また教務委員会では、3年度もコロナ禍にあってCPを担保するための授業方法や学内使用のあり方を状況に応じて検討し、全学的な協働体制のもとで教育の質を確保した。</p> <p>さらに、GPIに基づき開講している各授業科目の到達目標とDPの関係を示すカリキュラムマップを作成し、教育課程の体系性についての明確化を図った。</p> <p>加えて、3年度は、5年度からのデザイン科等の改革にあわせ、教務・入試合同委員会で、全専攻のAP・CP・DPの連関性を検証し、5年度の新キャンパス移転を踏まえて改定案を作成した。</p>	IV		1-1 1-2 1-3 1-4 1-5

**〔質問・意見等〕**  
**「カリキュラムマップを作成」や「5年度の新キャンパス移転を踏まえて改定案を作成」とあるが、具体的に説明するとともに、根拠となる資料を添付してほしい。**  
**また、「カリキュラムマップ」について、全体的実施状況における記述では、「公開に向けて準備を行った。」とあるが、小項目の方では若干記載内容が異なるのはなぜか。**

↓  
 〔次頁へ〕

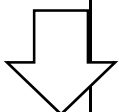
大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）  
 (1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

中期目標    ア 学士課程教育にあつては、学部の教育目標及び各科・専攻の教育方針に基づき、教養教育と専門教育を行い、学位授与方針に定める汎用的な教養と専門的な造形力を修めた職業人を育成するとともに、学部を本学の教育拠点と位置づける。

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由	添付資料番号
<p>〔回答〕 ※前頁より</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新キャンパス移転を機に、学習に対する学生の要望や本学の芸術教育に対する社会の要請を踏まえ、組織編成を見直すことに伴い、AP・CPの改定案を別紙1、別紙2のとおり作成した。</li> <li>・カリキュラムマップについては、別紙3のとおり。教育課程の体系的明確化を目的として3年度に作成し、4年度の公開に備えたものである。</li> </ul>					

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）  
 (2) 教育の実施体制等に関する目標

中期目標	イ 学生に対する教育研究指導体制を強化するとともに、教育研究に必要な施設、設備等の充実・整備を行う。
------	--

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由	添付資料番号
<p>(7) 授業科目の履修や課外、学外での学習を支援する方法を構築し、実践する。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 20px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p><b>〔質問・意見等〕</b>                      なぜ評価がIVなのか(年度計画を上回って実施している部分もしくはR3年度に拡充した部分など)を具体的に説明してほしい。                      ガイダンス関連の実績について、根拠となる資料を添付してほしい。                      KANABI-Portalに関して、「全ての科目についてコースを設定」とあるが、具体的に説明してほしい。</p> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">  <p>〔次頁へ〕</p> </div>	<p>(7) 授業科目の履修や学生の自主的な学習を支援する体制の充実を図る。</p>	<p>○新入生ガイダンスは、新型コロナウイルス感染症対策を徹底し行った。在校生ガイダンスは、2年度に対面で行えなかった2年生だけを対面で行い、3,4年生に対してはオンラインで行った。なお、対面での説明を最小限に抑えるために、2年度に立ち上げたKANABI-Portalを引き続き使用し、新入生ガイダンス及び在学生ガイダンスの一部を補った。特に、資格科目の履修、図書館の利用方法及び基礎科目集中履修期間の科目選択についてはオンデマンドで繰り返し確認できるようにし、履修指導を行った。</p> <p>○KANABI-Portalでは、全ての科目についてコースを設定して、状況の変化に対応できるように備えるとともに、自宅待機などで授業に参加できない学生にも資料等を受け取れるようにした。それ以外にも、教員ごとに必要に応じて工夫して活用されている。</p> <p>○学外展示施設であるアートベース石引は、新型コロナウイルス感染症の拡大状況を見ながら、条件付きで個展、グループ展にも貸し出しを行った。ただし、教員の監督下で博士課程の学生の発表の場としてはほぼ例年通り使用し、指導・助言を行った。</p> <p>○学生の個展・グループ展の開催については、学生展等開催交付金を47件交付し、併せてホームページ上での開催案内を行った。</p> <p>また、公募展の多くが中止となったが、一部の公募展は開催され、公募展出品等事業補助金を31件交付した。これらの交付により、学生の自主的な学外発表活動の支援を行った。</p> <p>○学生が作品を鑑賞する機会を充実させるため、「金沢21世紀美術館キャンパスメンバーズ」及び「国立美術館キャンパスメンバーズ」に加入した。</p>	IV		20 21 22-1 22-2 23-1 23-2

20

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）  
 (2) 教育の実施体制等に関する目標

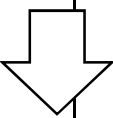
中期目標

イ 学生に対する教育研究指導体制を強化するとともに、教育研究に必要な施設、設備等の充実・整備を行う。

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料 番号
<p>〔回答〕 ※前頁より</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2年度に、新型コロナウイルス感染症拡大の状況下で急遽立ち上げたKANABI-Portalやクラスルーム、zoomライセンスの取得について、3年度は、学生に対する教育研究指導体制強化のため、今後も継続的に活用する方針を決定した。</li> <li>・3年度も引き続き、KANABI-Portal内に全授業のクラスルームを整備し、履修している学生に各クラスルームに登録させ、資料配布・動画配信等を行った。          なお、KANABI-Portalに関して、「全ての科目についてコースを設定」とは、上記の内容について述べたものである。</li> <li>・加えて、深刻なコロナ禍にあって、学生展覧会等開催費補助・公募展出品等事業補助等、学生の活動の支援を継続したためIV評価とした。</li> <li>・ガイダンス関連の実績資料については別紙4のとおり。</li> </ul>					

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（研究に関する目標）  
 (1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標

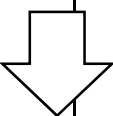
中期目標	ア 芸術の分野において、地域の文化を振興し、また国際的な交流を促進する研究を行い、研究拠点を形成する。
------	---

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料 番号
(ア) 金沢をはじめとする地域文化について、本学独自の視点による高度な水準の研究に取り組み、その成果を公開する。	(ア) 「平成の百工比照」収集作成事業として、漆工・陶磁・染織・金工の各分野の収集・整理を進め、金沢の地域文化の発展に資する研究に取り組む。	○本学の美術工芸研究所では「平成の百工比照収集事業」を実施しており、金沢の地域文化の発展のために、ものづくりにおける素材と技術、工程を学ぶ教育を充実させる研究に取り組んでいる。 ○3年度は、国立民族学博物館との連携協定に基づき、「平成の百工比照コレクションデータベースを基に、高等教育におけるデータベースの在り方及び活用手法について検証するとともに、社会連携事業と連動させることにより、高等教育教材の実用化を目的とする研究」を推進し、高等教育教材（映像）の制作を行った。 ○従来の一般公開に留まらず、専門的な研究者や民間の産業従事者がデータベースを駆使し、新たな技術研究や製品開発を行うなど、「平成の百工比照」を産業界においても活用できる環境整備を目指している。その一環として、美術工芸研究所ギャラリーにおいて、平成の百工比照の全資料を対象とする検索システムを稼働している。	IV		42 43
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p><b>〔質問・意見等〕</b>            なぜ評価がIVなのか(年度計画を上回って実施している部分もしくはR3年度に拡充した部分など)を具体的に説明してほしい。</p> </div> <div style="text-align: center; margin-bottom: 10px;">  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p><b>〔回答〕</b>            ・国立民族学博物館との当初の連携協定にはなかったこととして、高等教育教材(映像)を制作したことが挙げられる。            この高等教育教材(映像)は、今後公開を予定しており、本学のみならず、全国の博物館学芸員課程で活用できる資料であることからIV評価とした。</p> </div>					

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（研究に関する目標）  
 (1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標

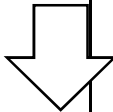
中期目標

ア 芸術の分野において、地域の文化を振興し、また国際的な交流を促進する研究を行い、研究拠点を形成する。

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料 番号
(イ) 本学の特色を活かして、芸術・文化等に関する国際的水準の研究に取り組み、その成果を公開する。  <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p><b>〔質問・意見等〕</b>              なぜ評価がIVなのか(年度計画を上回って実施している部分もしくはR3年度に拡充した部分など)を具体的に説明してほしい。</p> </div> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  </div>	(イ) 「平成の百工比照」を広く市民に公開するとともに、海外へ向けた情報発信に取り組む。	○美術工芸研究所ギャラリーは、新型コロナウイルス感染症の拡大による石川県緊急事態宣言及び金沢市まん延防止等重点措置の適用期間中を除き、感染防止対策を徹底して開館し、学生や市民の制限付きの閲覧を可能とした。 企画展としては、10月4日～11月12日に「平成の百工比照－染色の素材・道具・技法－」展、11月22日～12月24日に「平成の百工比照－陶磁の素材・道具・技法－」展を開催し、染色・陶磁分野の資料の特集展示と工芸技術記録映像の公開を行った。 ○平成の百工比照コレクションの海外へ向けた発信のため、工芸技術記録映像のキャプションや解説の英訳に取り組み、英語版の記録映像を完成させた。	IV		44 45-1 45-2
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p><b>〔回答〕</b></p> <p>・「平成の百工比照」の工芸技術記録映像は、キャプションのみならず技法の詳細に及ぶ長編動画本編すべてを英訳したものである。日本固有の工芸技術の英訳は容易ではないことから、高度な専門的映像資料の英訳は他には類を見ない貴重なものであり、IV評価とした。              実際に、本学の博士課程に在籍する外国人留学生も、映像を活用し研究に取り組んでいる。</p> </div>					

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（研究に関する目標）  
 (2) 研究実施体制等に関する目標

中期目標      ア 特色ある研究活動を推進するため、研究の実施体制や環境の整備を行い、実技と理論とが連携する研究体制を構築する。

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由	添付資料番号
(イ) 実技と理論が連携する総合的な研究体制を構築し、特色ある研究活動を推進する。  <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p><b>〔質問・意見等〕</b>              教員や学生の連携のもと、新たに展覧会やシンポジウムを開催しており、特色ある研究活動をさらに推進したと考えられるため、評価はⅣでも良いのではないか。</p> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">  </div>	(イ) 実技と理論が連携する研究体制を整備し、特色ある研究活動を推進する。	○3年度博士後期課程において、主たる研究領域の指導に加えて他領域の実技及び理論系の教員を柔軟に取り入れ、実技と理論が連携する研究体制を整備し、特色ある研究活動を推進した。また、研究指導資格審査に基づく各教員の主指導・副指導の資格を明記し、指導体制の厳格化を図った。 ○実技系の作家やデザイナー、理論系の研究者や評論家など32名を客員教授として招聘し、実技と理論が連携する特色ある研究活動を推進した。 ○実技と理論が連携した特色ある研究活動として、一般学科の理論系教員の企画による「内灘闘争一風と砂の記憶」展を、博士後期課程学生3名、修士課程学生3名、油画専攻教員1名の連携のもと学外の3箇所にて開催した。この展覧会は「内灘闘争」の記憶・記録を手がかりに「裏日本」から戦後を再考し、自分たちの現実的な問題としてこれを引き受けていく回路としてアートの可能性を探ることを目的とするもので、併せて、本学教員1名と外部から講師5名を招きシンポジウムを行った。 <b>【再掲10】</b>	Ⅲ		9

**〔回答〕**

・以前より新たな企画に取り組んでいるためⅢ評価としたが、今回の「内灘闘争一風と砂の記憶」展は、フィールドワーク～展覧会～シンポジウム～記録誌作成までを体系立てて行ったものであり、評価いただけるようであればⅣ評価としたい。